

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172000545		
法人名	有限会社 ケアコスモス		
事業所名	グループホーム ほのぼの2号館		
所在地	岐阜県中津川市福岡3441-1		
自己評価作成日	平成23年9月10日	評価結果市町村受理日	平成23年12月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2172000545&SCD=320&PCD=21
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 んふ住民福祉研究会		
所在地	〒503-0864 岐阜県大垣市南類町5丁目22-1 モナーク安井307		
訪問調査日	平成23年10月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者・家族の思いを、職員が理解して、声かけや、話しを良く聞く様にして、毎日が穏やかで、安心して生活が出来る様に支援する。地域の人達に認知症を理解して頂き、地域の人と共に、生活が出来る環境を作っていく。その一つとして、認知症サポーター養成講座の講師、キャラバンメイトを職員の中から養成し、地域での認知症の啓蒙活動をしている。又、本年度は地域の町内会長にお願いをして、地域交流会の開催をして多数の地域住民の人達と連携をとる事が出来た。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

GHIほのぼの2号館は中津川市の北部の丘陵地に位置し、建物は木々をふんだんに使用した木造家屋で、広く、明るく、窓越しの緑と木の香りが漂い利用者にとって癒しの空間となっている。出入り口が4箇所あり、有事のときに最も近い出口から避難が出来るようになっている。また、中津川市で行われた一斉避難訓練に利用者も参加しており、事業所でも毎月防災訓練を行っている。備蓄の倉庫も新たに設置し、家族や利用者の安心に繋がっている。また地域に向けた情報の発信も積極的に行っており、落語などボランティアの訪問が多い。当該事業所は東濃地区協議会のモデル事業所となっており、実施しているサービス支援は細部まで行き届いている。管理者をはじめ全職員が思いを一つにして理念に沿った支援の実践に努めており、利用者や家族の満足度がとても高い事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者を知る事を大切にするという従来からの基本理念に加え、地域と共にという新たな地域密着型の基本理念が掲げられておりそれぞれの理念に添った実践が出来る。	「・隣に座る・その人を知る・ゆっくりと穏やかに」と分かりやすい理念を掲げ、朝のミーティングで話し、全員に周知し、理念に沿ったケアを実践している。開設当初から職員の定着率が高く、長く働いている職員が多い。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃に参加したり、産業祭に出品したりと、地域のイベントに参加が出来、事業所を知ってもらう取り組みが出来ている。又本年度は地域交流会を開催し、地域住民にホームを訪問してもらい交流が出来た。	福祉健康祭りにパネル参加し事業所の紹介を行なった。またボランティアの訪問が多く、時には地域の参加を呼び掛け共に楽しんでいる。利用者の生きがいを見つける場となっており、様々な成果品がその証となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座の開催をして、認知症の啓蒙活動をしている。サポーター養成講座の講師(キャラバンメイト)の養成をして、地域で活動してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的に開催しており、地元の関係者に加え家族の参加も多い。地域からの要望に応えることで、絆が深まり協力が得られ易くなるなど、運営推進会議の成果が出ている。	運営推進会議は概ね2ヶ月に1回開催されており、運営の内容は運営推進会議規定に定めている。家族会を会議のなかで実施したり外部評価結果等も報告し、地域住民との交流を推進し質の向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	福岡総合事務所より、課長が運営推進会議に参加してくれている。又、2ヶ月に一度、介護相談員が訪問してくれている。認知症サポーター養成講座開催時には地域包括支援センターと連携をとり活動をしている。	福岡総合事務所が窓口になっており、ほのぼの1号館のときから行政との連携は維持できている。また、地域包括支援センターとも連携を密にしており、認知症サポーター養成講座や認知症の研修に積極的に協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	キャラバンメイトとして活動することで、職員の身体拘束に対する意識が高まっている。利用者の行動に対する目的や意味を、その都度考える事で、身体拘束をしないケアが行われている。	身体拘束をしない、鍵を掛けないなど、職員全員で行なわないことを確認し合っている。また身体拘束についての外部研修の内容を職員会議で報告し、目的や意味を共有している。身体拘束は絶対しない、行わないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会・研修に参加して職員の意識の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会、研修に参加して職員の意識の向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度の会話を大切にして、電話等でも連絡を取るようになっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族や利用者のちょっとした気づきや要望でも必ず管理者や職員に伝え、ミーティングで話し合い共有するようになっている。	事業所の上に堤があるため豪雨があると事業所に流出する恐れがあるという家族からの意見で、裏側の川に流れるよう工事が行なわれた。家族との関係も良く信頼関係が出来ており、意見を聞く体制が出来ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝行われているミーティング等で職員からの意見や提案が出されており、具体的な改善がなされている。	月に1回定期的にカンファレンスがあり、産業祭に何を出すのか職員の意見を聞き決定するなど、運営に反映させている。日頃より職員とのコミュニケーションが取れ、意見や提言が出易い環境である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力、向上心、実績を大切にし、給与にも出来る限りつなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には可能な限り参加している。施設内研修も職員から要望があった項目から研修をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会中津川支部主催実施の、平成22年度複数連携事業所研修、平成23年度キャリア形成訪問指導事業研修に参加して、交流の機会をもうけ、職員の質の向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	その人を知るという理念の様に、先ず利用者をしっかりみながら、対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前、後、家人のメンタルの部分のケアが必要であれば、安心してもらい、徐序に協力してもらっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	15・16と同じ。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人が出来る事をやってもらえる様に接している。(強制ではなくて)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	共に支えなければ、プランの施行や継続は難しい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の面会時に近所の人と一緒に訪問することを歓迎したり、外出時に自宅へ寄ったり、墓参りをするといった支援を実施している。	地域の交流に積極的に参加しており、昔馴染みの人の他に、参加した場所での馴染みが出来ている。また地域のボランティアとも馴染みの関係になり、利用者がボランティアの訪問を待ち望み、職員はその関係の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時には席順を変えたり、くつろぐ椅子の配置にも考慮している。利用者が、レク活動に楽しく参加できる様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の様子は、さしさわりの無い程度に対応させてもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	じっくりと話を聞く事を心がけ、会話の中の「気づき」を大切に、本人の希望や意向に添うように努めている。	利用者は比較的元気な人が多いが、「その人を知る」という理念に基づき、事業所での暮らしや日々の生活について思いの把握に努めている。職員も利用者の希望や要望を叶えるよう、職員会議などで話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	なるべく取り入れる様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	詳細が画面上には無いが、スタッフ一人一人は把握していて、対応に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	関係者や家族に加え、本人にも計画の内容を説明し、同意を得るようにしている。又、サービスの実施状況を定期的に点検し、計画の見直しに反映させている。	介護計画は職員と医療関係者との協議の上作成している。また家族の面会が多く利用者ともコミュニケーションが取れているので、希望や要望を本人、家族と良く話し合い介護計画に盛り込んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	26と同じ。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時その人に合ったケアサービスを、出来る限り行える様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	徐序に勤めている。ボランティア、五感体操等。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科については本人と家族の同意の上、協力医をかかりつけ医としている。他科については希望する医療機関に家族同伴の受診とし、日頃の様子を伝えると共に、受診後は結果報告を受け連携を図っている。	協力医の往診は月に2回定期的であり、夜間の体制もできている。かかりつけ医の受診には家族が同行し、その結果を聞いて、代表者をはじめグループの看護師が医療と連携を取っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師と、連携がとれる体制が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	中津川市共通の情報提供書が作成されているので、必要時には渡す。又、入院後の連絡も取る。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の支援については医療機関と家族の協力等条件が整えれば取り組むたいと思っている。入居時に、本人および家族に事業所の方針を伝え確認を取っており、さらに状態に応じて意向を聞き直し、対応方針の共有を図りながら支援している。	入居時に重度化した場合の意向を聞いている。利用者家族と交替で見守りながら看取った経験がある。重度化や終末期に向けた体制がまだ十分とは言えない。	重度化した場合の対応のあり方を職員や関係者と話し合い、方針の統一と共に看取り指針の作成の検討を期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地域の防災訓練に参加、地域の人と共に応急手当、AED使用講習に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月の自主避難訓練および消防署立会いの訓練にも利用者が参加し、有事の際には速やかに対応できる体制が出来ている。又、災害時の地域との連携、協力体制も築かれている。災害発生時に必要となる備蓄品も準備が出来ている。	中津川市の一斉避難訓練に利用者、職員が参加しており、また年に一回消防署の立会いの下、さらに独自で毎月、避難訓練を入居者と共に行っている。避難経路にはスロープが瞬時に取り付けられるようにしてある。備蓄倉庫を室外に設け、乾パン、水、米などの用意がされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者を人生の先輩と敬い、尊厳ある対応を心がけ、日常の現場においては不適切な関わりや言葉かけ等が見られたときには、その場で代表および管理者が、あるいは職員同士で気づきを伝え確認している。	利用者一人ひとりが決定したことを尊重し、日常生活の支援をしている。トイレやそれぞれの居室に入る時には必ずノックをし、本人の了解を得て入室するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	23と同じ。本人の言葉を引き出す様に心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべくその様に心がけて、無理強いはしない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	危険が無い限り、自由にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえや盛り付け、片付けなど、利用者がそれぞれの力を活かしながら意欲的に参加している。	野菜の皮むきやもやしの根切り、おはぎ作りなど、利用者個々の力を活かしながら一緒に作り、自信や楽しみにつなげている。また食べた食器を流しに持って行ったり、洗った食器を拭いて片付ける利用者もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の少ない場合、チェック表の活用、形態の工夫等を行い摂取して貰える様に考える。嚥下障害の利用者にはとろみ食にて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	感染予防の嗽をはじめ、口臭にも気をつけてながら、口腔ケアを行い介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人一人の排泄パターンや習慣を把握し、本人の様子を見ながらトイレ誘導を行っている。又、パット等必要時には職員がポケットに入れて持参し、利用者の自尊心に配慮した対応を心がけている。	排泄チェックをし、夜間でも必要な時にトイレ誘導し自立支援を行った。漏らしが無くなり、自分で起きられるようになった利用者がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の食事とし、可能な限り、散歩に出かけたり、水分をしっかりとって貰う様にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴介助の際には、職員は利用者が自身で出来るところは手をださず見守り、本人の気持ちや誇りを大切に支援をしている。又家族が介助に訪れる利用者もあり、一人ひとりに合わせた対応をしている。	季節によって、菖蒲湯、柚子湯など入浴を楽しむ工夫がある。入りたくない利用者には時間をずらして介助者を変えるなど、利用者に合わせて支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホールに大きなソファを設置、いつでもくつろげる空間を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	必ず確認している。(担当を決めている)変化があれば服薬前に看護師の指示をおく。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人が得意としている事や、趣味も考慮しながら、生活してもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時期には日々の散歩や、玄関先のベンチでの談笑など、一日1回は外気に触れるように心がけている。又、週に一度はドライブで遠出をしており、弁当持参で出かけたり、自分の好きな品の買い物や外食を楽しんでいる。	事業所内の周囲を散歩できるので、天候の良い日は出かけるよう心がけている。天候の悪い日は、距離が分かるよう数字が書かれた廊下を歩き、機能訓練に繋げている。葡萄狩り、そばの花見、紅葉など、月に3~4回外出の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には「なくなっても良い」事を了解のうえで、本人が所持する事もある。その他、希望時には一緒に買い物に行く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家人の了解を得た上で、手紙の内容を確認する事もある。基本的には、自由に出来る様になっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全を第一に考えながら、利用者が集まり易く居心地のよい共同空間作りを心がけている。居間や食堂、廊下には、季節の花や利用者手作りの作品、遠出した時や行事の写真等が飾られ、安心して落ち着ける場所になるよう工夫している。	広々とした共用空間は木材をふんだんに使い、木のぬくもりと癒しを感じる居心地の良い場所となっている。ゆったりとしたソファに腰掛け、気のあった人同士が談笑したりくつろげるスペースがある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	21と同じ。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時に必要な物を紙面で渡し、使っていた物をもって来て貰うように伝えてある。クローゼットと洗面台は備え付けとなっており、テレビ、タンス、家族の写真等が持ち込まれ、安心して過せる居室となっている。	今まで使用していた馴染みの物を持ち込んでもらうよう、入居時に説明している。その人らしく落ち着いて過ごせるよう取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に合わせての環境・用具の準備をしている。		